大阪ガスのお問い合わせ先

大阪事業本部	〒550-0023	大阪市西区千代崎3丁目南2-37	電話 大阪	06(586)1122
南部事業本部	〒590-0973	堺市住吉橋町2-2-19	電話 堺	0722(38)1131
和歌山支社	〒640-8033	和歌山市本町1-5	電話 和歌山	0734(31)2481
北東部事業本部	〒578-0925	東大阪市稲葉2-3-17	電話 河内	0729(62)1131
北部事業所	〒569-0025	高槻市藤の里町39-6	電話 高槻	0726(71)0361
奈良支社	〒631-0038	奈良市学園北2-4-1	電話 奈良	0742(44)1111
兵庫事業本部	〒650-0044	神戸市中央区東川崎町1-8-2	電話 神戸	078(360)3100
姫路支社	〒670-0836	姫路市神屋町4-8	電話 姫路	0792(85)2221
豊岡支社	〒668-0047	豊岡市三坂町6-57	電話 豊岡	0796(23)2221
京滋事業本部	〒600-8815	京都市下京区中堂寺粟田町1	電話 京都	075(311)7381
滋賀支社	〒525-0037	草津市西大路町5-34	電話 草津	077(562)5311
滋賀東支社	〒522-0074	彦根市大東町12-11	電話 彦根	0749(22)3131
長浜営業センター	〒528-0058	長浜市南呉服町3-4	電話 長浜	0749(62)7171
本社	〒541-0046	大阪市中央区平野町4-1-2	電話 大阪	06(202)2221

大阪ガス株式会社

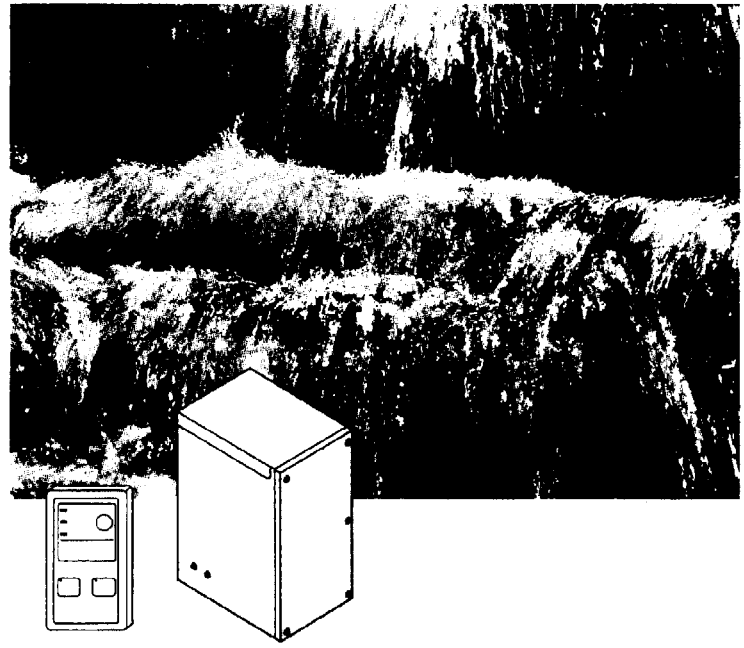
KGH9501LW3A1
F1098-0

大阪ガス

洗濯注湯ユニット

取扱説明書

型番　46－648型

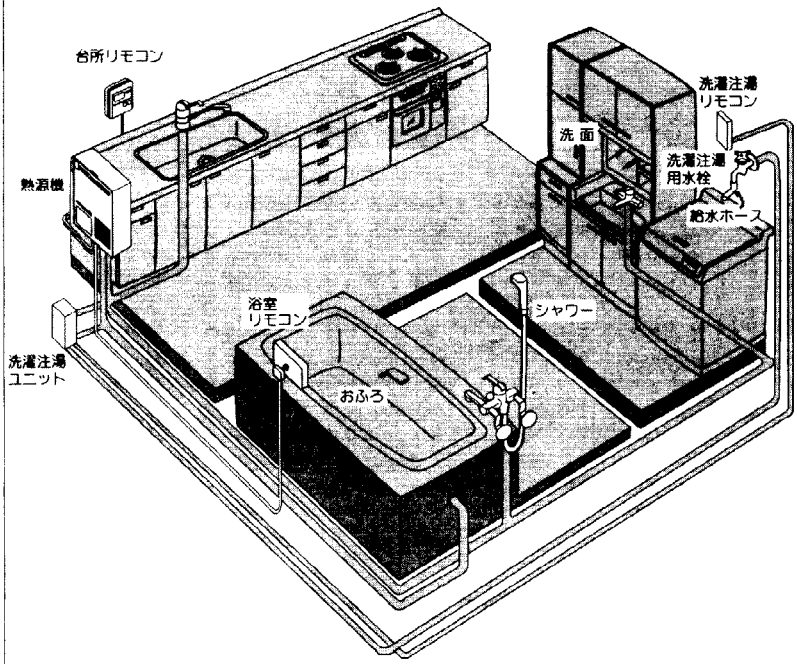


このたびは洗濯注湯ユニットをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございました。

- 洗濯注湯ユニットの機能を、十分生かしていただくために、必ずご使用の前に取扱説明書をお読みいただき、正しくお使いください。
- 別添の保証書とともにこの「取扱説明書」を大切に保管してください。
- 来客者などが洗濯注湯ユニットを使用されるときは、その前に必ず取扱説明書の内容を説明してください。
- この取扱説明書を紛失した場合は、お買い上げの販売店またはもよりのガス会社にて再購入してください。

残り湯・お湯・水での洗濯ができます！

- 残り湯を無駄なく洗濯に利用できます。
- 残り湯が不足しても自動的に水に切換えます。



※本文中に出てくる熱源機、熱源機のリモコンは、実物と異なる場合があります。

- 本製品は一般家庭用のため、業務用には使用しないでください。
著しく洗濯注湯ユニットの寿命が縮まります。

もくじ

必ずご確認ください

ページ
- 安全上のご注意…… 4
- 使用上のお願い…… 6

使いかた

ページ
- 早見表…… 7
- 初めてお使いになるとき…… 8
- 洗濯注湯のしかた（全自動洗濯機の場合）……10
- 洗濯注湯のしかた（二槽式洗濯機の場合）……12
- 日常の点検とお手入れ……14

必要なときにお読みください

ページ
- 故障かな!?…… 16
- 凍結予防について……18
- 仕様……18
- 各部のなまえ……19
- メモ欄……20
- アフターサービスについて……23

安全上のご注意 (必ずお守りください)

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をした時に生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

⚠警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。
(下記は、絵表示の一例です。)

⃠	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
❗	この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠警告

■お出かけやお休みなど長時間使用しないときは、洗濯注湯用水栓を「閉」にする

❗

旅行など、長期間使用しない場合は凍結予防のため水抜きを行なう(☞18ページ)

水漏れが生じた場合、感電の原因となります。

■機器の設置、移動の工事はお買い上げの販売店に依頼する

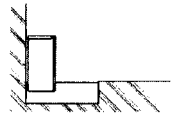
❗

正常に機器が設置されないと火災や機器故障の原因となります。

⚠注意

■排水の不良などで機器が冠水するような状態では使用しない

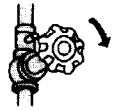
⃠

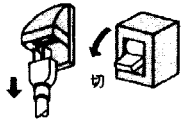


感電や機器故障の原因となります。
●販売店にご相談ください。

■点検・お手入れ時は、次の手順に従う

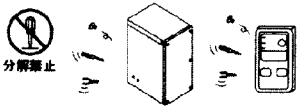
❗ 給水元栓を閉め、熱源機の電源プラグを抜く、またはブレーカを「切」にする(☞14ページ)





上記手順に従わないと、感電や機器故障の原因となります。

■お客様ご自身で修理・分解・改造をしない(フロントカバーを外さない)



不備が生じた場合、感電や機器故障の原因となります。
●販売店に依頼してください。

■洗濯注湯用として使用する

❗ 他の用途に使用すると、感電や機器故障の原因となります。

■凍結後再使用する際は、機器および配管から水漏れのないことを確認する

❗ 水漏れによる床や壁などの損害は、お客様の御負担となります。

■機器から洗濯注湯用水栓に流れる水や湯を飲まない、調理に使わない

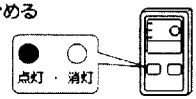
⃠ 健康を損なう恐れがあります。(雑用水としてお使いください。)

■ドラム式洗濯乾燥機には使用しない

⃠ ドラム式洗濯乾燥機の故障の原因となります。

■使用中はリモコンのランプの点灯・消灯を確かめる

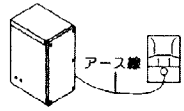
❗



異常を早期に発見できなくなります。

■アース接続されていることを確認する

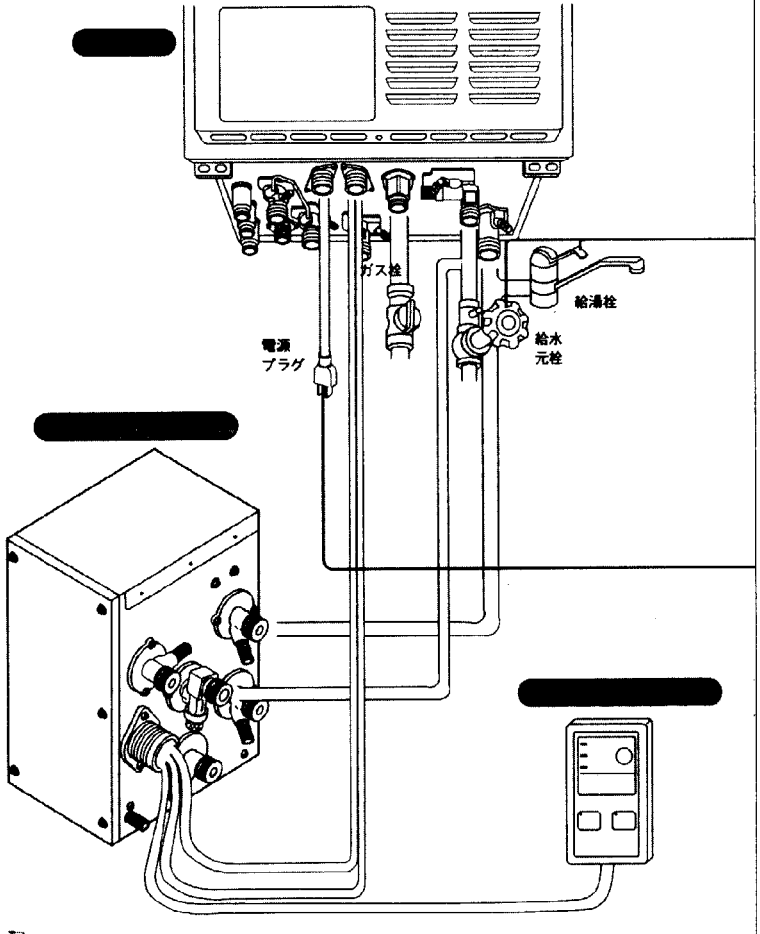
❗



漏電が生じた場合、感電の原因となります。
●アース接続されていない場合は、販売店に依頼してください。

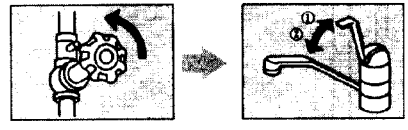
必ず

初めてお使いになるとき



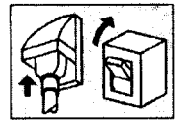
※混合水栓のレバーを上げた状態が、給湯栓「開」の場合で説明してあります。

1 ■ 水の出ることを確かめる



給水元栓
給湯栓を開ける
①開けて水を出し、
②閉める。

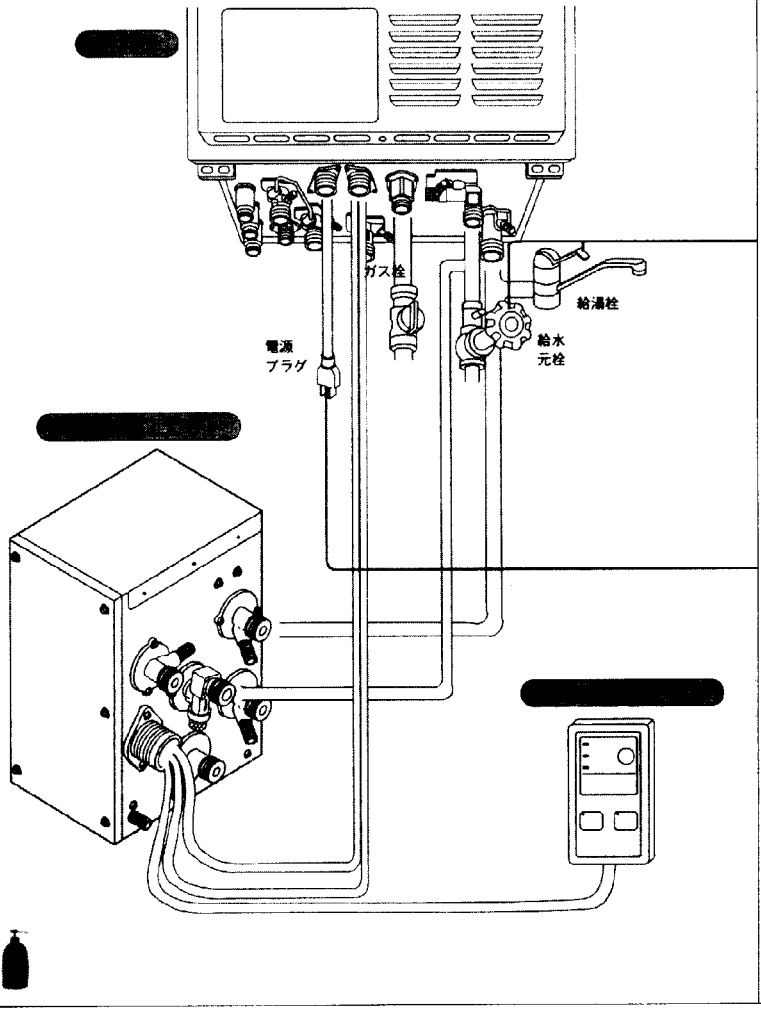
2 ■ 通電を確かめる



熱源機の
電源プラグを差し込む
または、ブレーカを
「入」にする

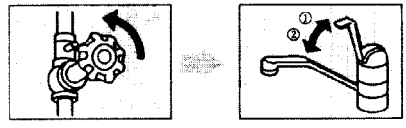
すぐ

初めてお使いになるとき



※混合水栓のレバーを上げた状態が、給湯栓「開」の場合で説明してあります。

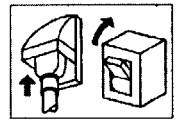
1 ■ 水の出ることを確かめる



給水元栓
給湯栓を開ける

①開けて水を出し、
②閉める。

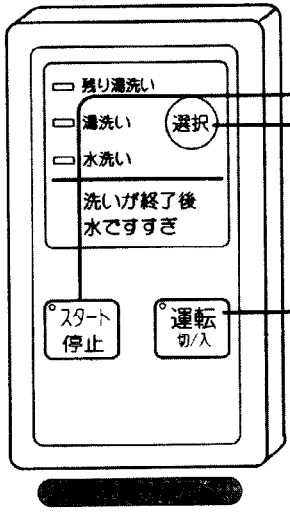
2 ■ 通電を確かめる



熱源機の
電源プラグを差し込む
または、ブレーカを
「入」にする

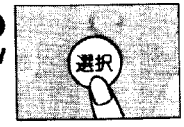
すぐ

洗濯注湯のしかた（全自動洗濯機の場合）

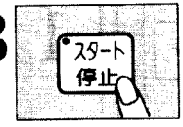


1 **押す**

● 運転ランプ点灯

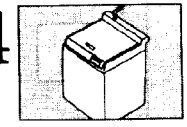


2 洗濯コースを **選択する**（上記参照）

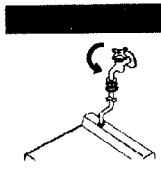


3 **押す**

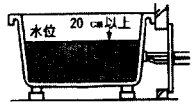
● スタートランプ点灯。



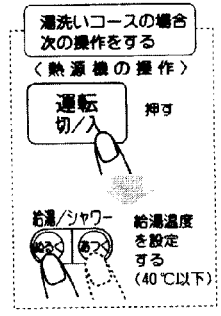
4 洗濯機の **運転操作をする**

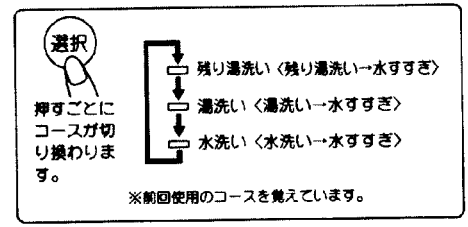


● 水栓を開けておく。



● 浴そうの残り湯が循環口より20 cm以上あることを確認する。





■ **洗いが終わると**

➡自動的に水ですすぎます。

■ **すすぎが終わると**

➡約20分後、スタートランプが消灯します。

➡さらに約60分後、運転ランプが消灯します。

すぐ

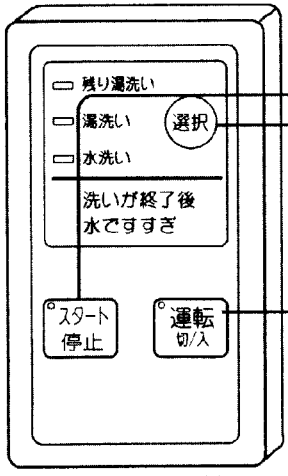
お知らせ

- 浴そうの残り湯が途中でなくなった場合
  ➡約3分後に自動で注水に切り換わります。
  （洗濯機より断水エラーが出る場合は、再度洗濯機のスタートスイッチを押す。）
- 2回以上洗濯をする場合
  ➡ スタート 停止 が「切」になっていることを確認し、再度「入」にする。
- 湯洗いコースで注湯中に熱源機の運転スイッチを「切」にすると
  ➡注水に変わります。

お願い

- 湯洗いの場合の温度設定は
  ➡40℃以下に設定してください。
  ➡41℃以上に設定していると、自動的に注湯を停止し、注水に変わることがあります。
- 洗い時間は3分以上にする
  （3分以内の場合、すすぎに変わらず再度、洗いになります。）
- 洗濯機で 予約タイマー洗濯 をすると
  残り湯洗いコースは水洗いに切り換わることがあります。

洗濯注湯のしかた（二槽式洗濯機の場合）



洗濯注湯リモコン

1 押す

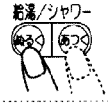
●運転ランプ点灯

2 洗濯コースを**選択する**

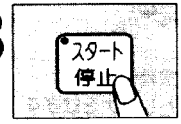
湯洗いコースの場合
次の操作をする

〈熱源機の操作〉

押す



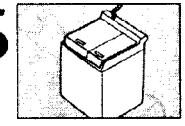
給湯温度を設定する（40℃以下）



3 押す

●スタートランプ点灯。

4 水栓を開け**満水になると閉める**



5 洗濯機の**運転操作をする**

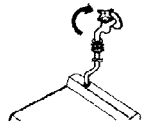
■ 洗いが終わると

➡自動的に水ですすぎます。

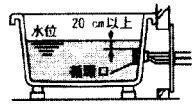
■ すすぎが終わると

➡約20分後、スタートランプが消灯します。

➡さらに約60分後、運転ランプが消灯します。



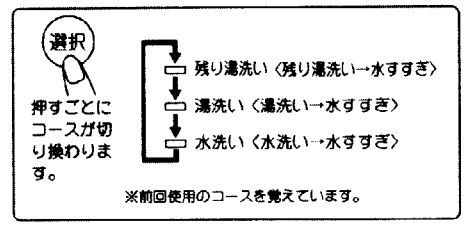
●水栓を閉めておく。



●浴そうの残り湯が循環口より20 cm以上あることを確認する。

- 浴そうの残り湯が途中でなくなった場合
  ➡約3分後に自動で注水に切り換わります。
  （洗濯機より断水エラーが出る場合は、再度洗濯機のスタートスイッチを押す。）
- 2回以上洗濯をする場合
  ➡ スタート 停止 が「切」になっていることを確認し、再度「入」にする。
- 湯洗いコースで注湯中に熱源機の運転スイッチを「切」にすると
  ➡注水に変わります。

- 湯洗いの場合の温度設定は
  ➡40℃以下に設定してください。
  ➡41℃以上に設定していると、自動的に注湯を停止し、注水に変わることがあります。
- 洗い時間は3分以上にする
  （3分以内の場合、すすぎに変わらず再度、洗いになります。）



すぐ使いたいとき

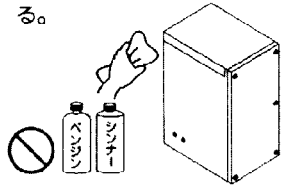
日常の点検とお手入れ

「点検・お手入れ」は、必ず熱源機の給水元栓とガス栓を閉め、熱源機の電源プラグを抜いて機器が冷えてから行なってください。次の要領で定期的に行なってください。

お手入れの方法

本　体

ぬれた布でふき、十分に水気をふきとる。特に汚れのひどいときは、中性洗剤を使用する。



リモコン

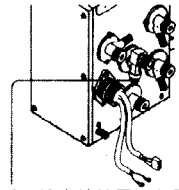
湿った布でふく。

〔お願い〕
- ベンジンや油脂系の洗剤を使用しない！
- 水をかけない！

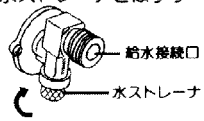
浴そう

浴そうはこまめに掃除してください。湯あかが残っていると銅イオンと化合して青く変色することがあります。

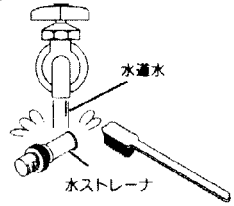
給水側水ストレーナ



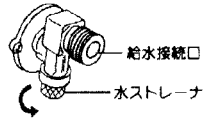
1 給水接続口にある水ストレーナをはずす



2 歯ブラシなどで洗う

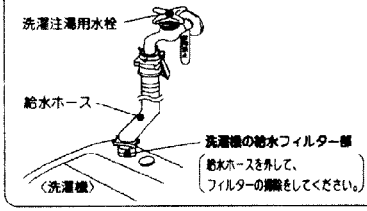


3 もとのように取り付ける



お手入れの方法

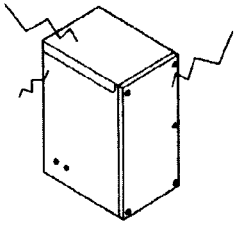
洗濯機の給水フィルター



- 給水フィルターが汚れていると、お湯や水の出が悪くなります。
- お手入れの方法は、洗濯機の取扱説明書をご覧ください。

点検の方法

■ 機器の異常音は？
■ 外観に異常は見られませんか？



長期間使用しなかった場合

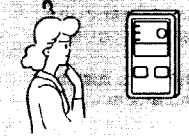
■「洗濯注湯のしかた」の「湯洗い」コースで湯洗いを行ない、お湯が出てくるまでの水を排水してください。

その後、一旦洗濯注湯リモコンの運転スイッチを「切」にし、再度お好みのコースで使用してください。

すぐ

故障かな！？

故障と思う前に次の内容に従ってご確認いただき、それでも直らないときや原因のわからないときは、お買い上げの販売店またはもよりのガス会社へご連絡ください。

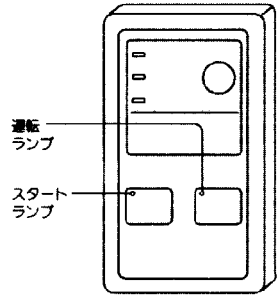
症　状	ご確認ください
給湯暖房リモコンの運転ランプが点灯しない 	●停電していませんか。 ●熱源機の電源プラグがコンセントに差し込まれていますか。
「水洗い」コースの水量が少ない	●ストレーナーが詰まっていませんか。 ●洗濯機の給水口のフィルターが詰まっていませんか。
「残り湯洗い」コースが「水洗い」コースになる	●浴そうの循環口より上部に残り湯がありますか。
「湯洗い」コースが「水洗い」コースになる	●洗濯注湯運転中に熱源機リモコンの運転スイッチが「切」になっていませんか。 ●熱源機リモコンの給湯温度設定が40℃以下になっていますか。
洗いモードからすすぎモードに切り換わらない	●洗濯機の洗い時間が3分以上になっていますか。

停電および断水時

停電	〈停電時〉	●運転は停止します。 ●洗濯注湯用水栓を閉じてください。
	〈再通電後〉	●使いかた（☞10～13ページ）によりご使用ください。
断水	〈断水時〉	●運転スイッチを「切」にしてください。 このとき洗濯機の運転も「切」にしてください。 ●洗濯注湯用水栓を閉じてください。
	〈再通水後〉	●使いかた（☞10～13ページ）によりご使用ください。

故障表示について

不具合が生じたとき、その原因をランプ表示でお知らせします。



スタートランプ	運転ランプ	故障内容	処置
● 同時に点滅	●	三方弁異常	運転スイッチを「切」後、再度「入」にしても同じランプ表示をする場合は、お買い上げの販売店またはもよりのガス会社へご連絡ください。その際左記の故障表示をお知らせください。
● 交互に点滅	●	水流スイッチ異常	
● 点滅	○ 消灯	温度センサー断線	
○ 消灯	● 点滅	温度センサー短絡	

もし

凍結予防について

通常は自動保温します

この機器は、気温が下がってくると自動的に凍結予防ヒーターが作動して本体内を保温します。

- この機器は熱源機から電源を供給しています。
  熱源機の電源プラグを抜くと、凍結予防ヒーターは作動しません。

※配管・バルブの凍結予防はできません。

水抜きの方法
（異常寒波や長期間使用しないとき）

下記に従って水抜きを行なってください。

熱源機の電源プラグを抜く前に

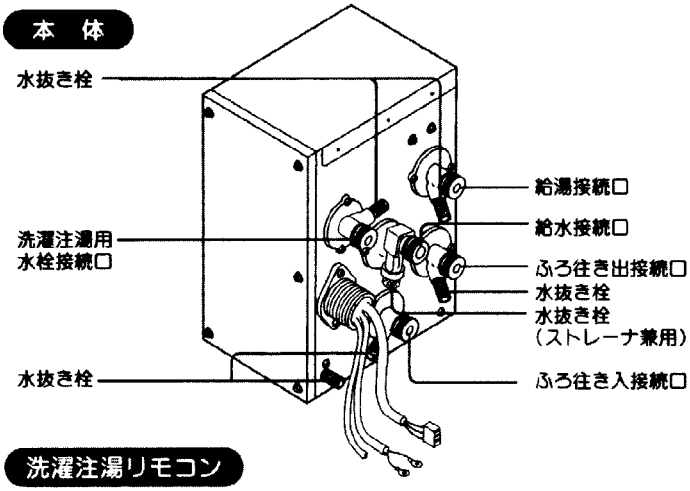
1.給水元栓が閉まっていることを確認する。
2.機器の水抜き栓（6カ所）を開ける。
3.洗濯注湯用水栓を開ける。
4.給水ホースを外す（少量の水が出ますので、容器などで受けてください。）
5.洗濯注湯リモコンを「入」にし、湯洗いコースに設定する。
6.スタートスイッチを押す。
7.約10分間放置する。
8.洗濯注湯リモコンを「切」にする。
9.熱源機の電源プラグを抜く。
※再使用時は、熱源機の説明書およびこの説明書の「使いかた」（☞10～13ページ）に従う。

仕　様

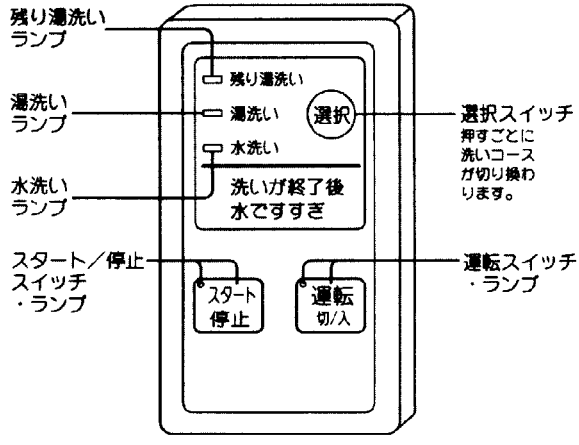
型番（コード）		46-648
型式名		HW-P115
使用水圧		100～600 kPa（1.0～6.0kgf／cm²）
外形寸法	本体	高さ 251 mm×幅 143 mm×奥行 182 mm
	リモコン	高さ 120 mm×幅 70 mm×奥行 20 mm
質量（本体）		6 kg
接続口径	ふろ往（入・出）	R1／2
	給湯	R1／2
	給水	R1／2
	洗濯機	R1／2
電気関係	電源	AC100V（50／60Hz）
	消費電力	11W（凍結予防ヒーター作動時 53W）
	電源コードの長さ	2 m
安全装置		過圧防止安全装置 電流ヒューズ・凍結予防ヒーター

各部のなまえ

本体



洗濯注湯リモコン



もし
必要なとき

メモ欄

メ モ 欄

アフターサービス

保証書について

- 別添の保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめになり、保証書内容をよくお読みの後、大切に保管してください。
- 保証期間経過後の故障修理については、修理により製品の機能が維持できる場合は、ご希望により有料で修理いたします。

サービスを依頼される前に

- まず16~17ページの 故障かな！？ を確認のうえ、なお異常のあるときは、お買い上げの販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
- アフターサービスをお申し付けのときは、次のことをお知らせください。
  1. ご氏名・ご住所・電話番号・道順(付近の目印)
  2. 品　名……洗濯注湯ユニット
     型　番……熱源機本体のフロントカバーに表示してあります。
  3. お買い上げ日
  4. 故障または異常の内容
     (エラーコードなどできるだけ詳しく)
  5. 訪問ご希望日

4 46-648
大阪ガス株式会社

補修用性能部品の最低保有期間について

補修用性能部品(機能維持のために必要な部品)の最低保有期間は製造打切り後7年です。ただし、最低保有期間経過後であっても補修用性能部品の在庫がある場合は、有料で修理いたします。

転居または機器を移設されるとき

- ガスの種類が異なる地域、または電源周波数の異なる地域へ転居される場合は、調整・改造の必要があります。お買い上げの販売店または転居先の大阪ガスにご相談ください。
- 増改築などのため熱源機や洗濯注湯ユニットを移設される場合、工事には専門の技術が必要となりますので、必ずお買い上げの販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
- 設置場所の選定にあたっては、運転音や振動が大きく伝わらないような場所をお選びください。また、熱源機本体の排気口からの温風や運転音が隣家の迷惑にならないような場所を選ぶなど、ご配慮ください。
- 転居、移設に伴う調整や工事の費用は、保証期間内でも有料となります。

アフターサービス等についてわからないとき

お買い上げの販売店またはもよりの大阪ガスにお問い合わせください。

保守契約制度

- 保守契約制度（有料）に加入いただくと、定期点検を専門家が責任をもって行ないます。この保守契約につきましては、お買い上げの販売店またはもよりの大阪ガスにご相談ください。

大阪ガス　ガス給湯暖房機用別売品洗濯注湯ユニット

工事説明書　46－648型

工事される方へのお願い

●この機器を正しく安全にご使用いただくために、この説明書をよくお読みになって指定された工事を行なってください。

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をした時に生じる危害や損害の程度を、次の表示で説明しています。

⚠注意　この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

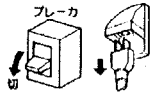
■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で説明しています。

❗　この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠注意

■工事は、熱源機の電源（ブレーカまたはコンセント）を「切」にしてから行なう

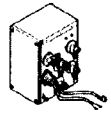
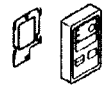
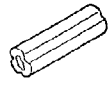
❗感電の原因となります。



お願い

■熱源機本体が、４６－６４８型に対応していることを確認する（販売店、ガス会社などに確認する）
■設置工事後は、この説明書と取扱説明書、保証書に必要事項を記入しお客様に渡す
■ユニットの取付工事に必要のないねじは絶対に締め付けたり、ゆるめたりしない
■壁に貫通穴をあけるときは、壁内部にある柱・鉄筋の位置を確認して取付位置を決める
■ケーブル線は直接熱の影響を受けないところに配線する
■ケーブル線をコンクリートなどに埋め込む場合には、電線管などに収め、ケーブルに傷がつかないようにする
■ケーブル線の総延長は２０ｍ以内になるように配線工事を行なう
■メタルラス張りなどの壁を貫通する場合は、メタルラスと金属電線管が電気的に接続しないようにする
■次の法、基準、指針、条例に従って設置する
●電気設備技術基準　●電気工事士法　●電気用品取締規則
●日本ガス機器検査協会発行の「ガス機器の設置基準及び実務指針」
●水道法　●消防法　●当該地区の市・町・村の火災予防条例

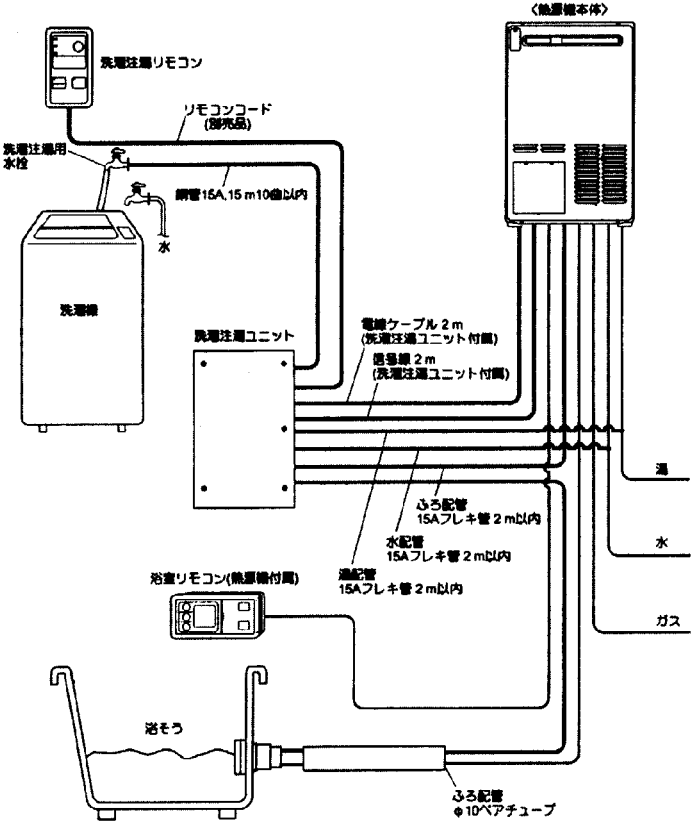
付属品　※（　）内は数量です。

洗濯注湯ユニット本体	洗濯注湯リモコン・取付板	本体取付金具	アース線
 (1)	 (各1)	(2)	(1)
ソルダー端子	注意ラベル・注意札	木ねじ（φ3.8×30）	丸皿小ねじ
(1)	(各1)	(4)	(2)
PYプラグ	丸皿木ねじ	パッキン	取扱説明書
 (6)	(2)	(2)	(1)
保証書	工事説明書（本品）	固定バンド	閉端接続子	Y端子
(1)	(1)	(2)	(2)	(3)

〈別売品〉リモコン接続用ケーブル線（２心線）……(4)３８－１３２型

配管接続図

※洗濯機配管やフレキ管部分にも保温処置をして下さい。



※洗濯注湯用水栓は必ず横水栓を使用します。混合水栓は使用しないでください。

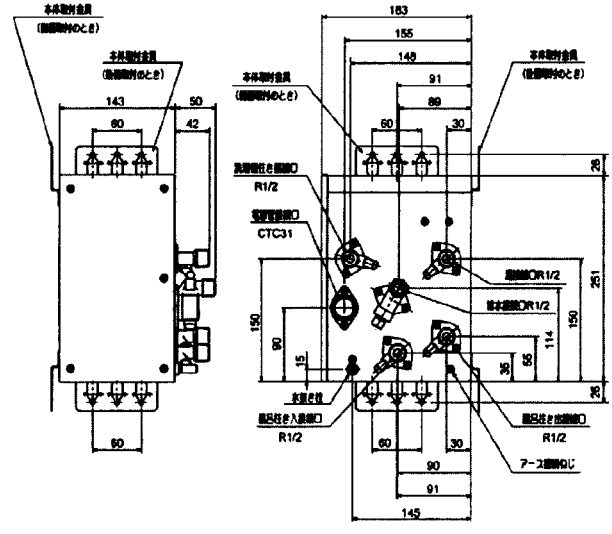
※洗濯機専用給水栓を必ず取付けてください。

※洗濯注湯ユニット接続時のふろ配管条件については、熱源機により異なります。販売店、ガス会社などに確認してください。

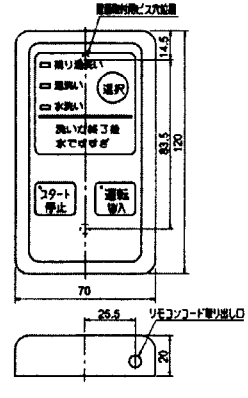
外形寸法図

(1)洗濯注湯ユニット

※取付方向を決め、付属の本体取付金具を洗濯注湯ユニットの後面または側面に取付けてください。



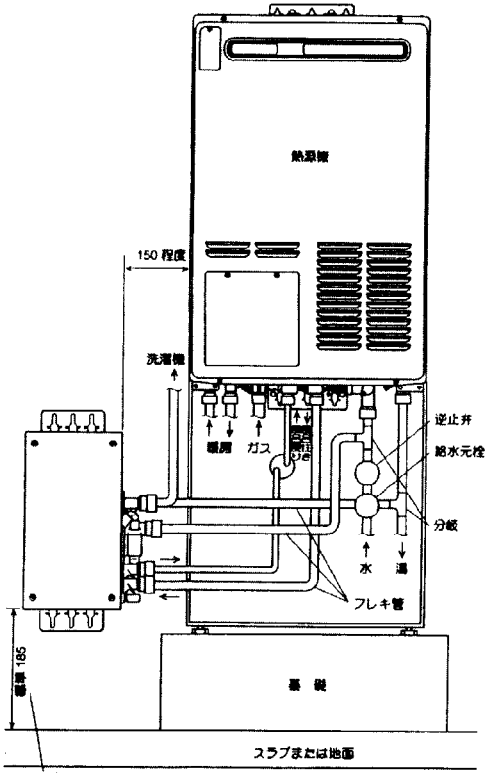
(2)洗濯注湯リモコン



施工例

(1)据置設置

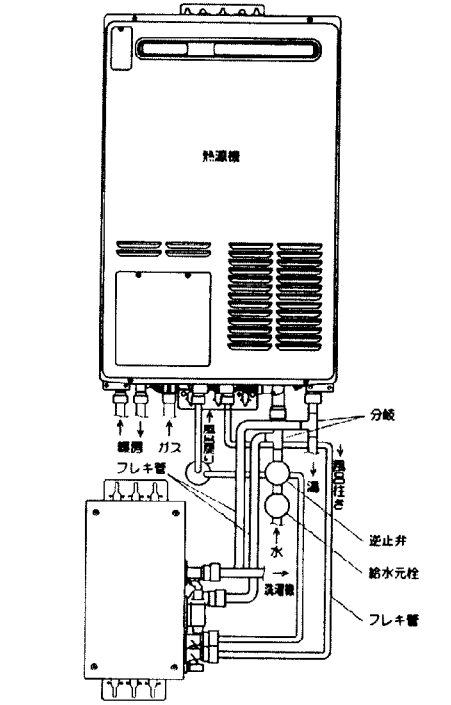
※イラストはガス給湯暖房機を用いた例です。



※スラブまたは地面と洗濯注湯ユニット底面は冠水などの水の侵入を防止するため空間をあけてください。(標準185 mm)

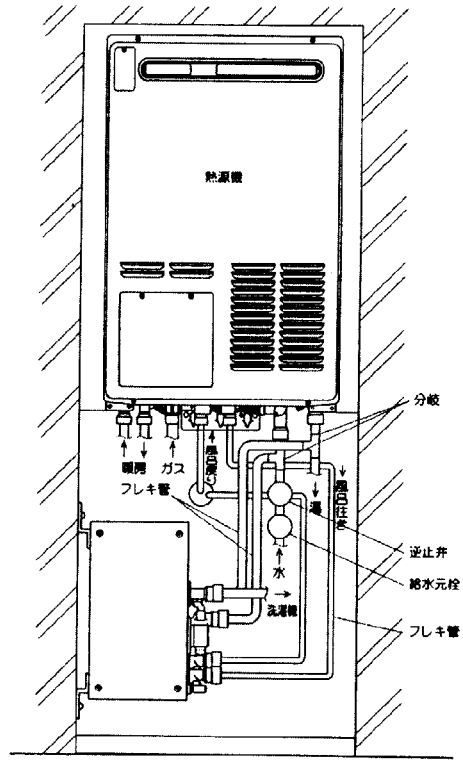
(2)壁掛設置

※イラストはガス給湯暖房機を用いた例です。



(3)ＰＳ設置

※イラストはガス給湯暖房機を用いた例です。



※パイプシャフトの前面扉の上部および下部に各々100 cm²以上の開口部を設けてください。
※パイプシャフトの設置は自治体によっては独自の規定をしている場合があるため、確認をしてください。

※フレキ管、洗濯注湯配管も必ず保温してください。
※水道配管用継手類を用い、分岐配管してください。
※洗濯注湯用水栓までの配管は、銅配管15A（15 m10曲がりまで）を使用してください。

設置前のお願い

工事前に手配の必要なもの

①必要な長さのリモコンコード（別売品）１本
②熱源機の湯水接続口径に合った水道配管用継手類を用意してください。
③熱源機と洗濯注湯ユニットの間を接続するフレキ管３本

お願い

①熱源機の電源を「切」、ガス栓を「閉」、水元栓を「閉」、給水給湯の水抜き、浴そうの排水、ふろ回路の水抜きを行なう。

②洗濯機への注水以外に使用しない。
※洗濯注湯用水栓に必ず付属の注意ラベルを貼付し注意札を取付けてください。

③排水処理のできる場所へ設置する。

④浴室内等湿度の高い場所に設置しない。

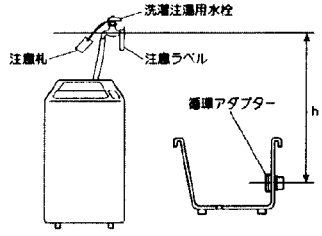
⑤冠水するような場所に設置しない。

⑥洗濯注湯ユニットに付属の熱源機を接続する電源ケーブルと信号線は２ｍです。
熱源機の内部の配線距離、コードの引き回し等を含みます。

⑦熱源機、ガスメーター、洗濯注湯ユニット等のメンテナンススペースを十分にとってください。

⑧取付壁面には十分な強度を確保してください。

⑨施工条件



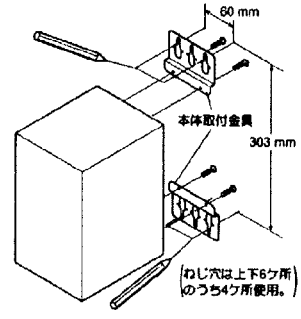
０．５ ｍ≦ｈ＜１．５ ｍ

洗濯注湯用水栓と循環アダプターの高さｈは０．５ ｍ以上１．５ ｍ未満にしてください。
また、循環アダプターと熱源機の施工条件は熱源機の工事説明書に従ってください。

洗濯注湯ユニットの取付方法

(1)ねじ穴の位置を決める

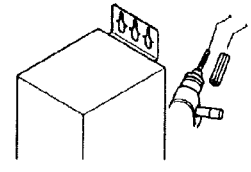
①本体取付金具をユニットに固定します。
②本体取付金具を壁面に合わせ、ねじ穴位置を決めます。
（ねじ穴位置は外形寸法図を参照してください。）
※（施工例）も参照してください。
壁面とユニットの取付方向にあわせて、本体取付金具をユニットの後面または側面に取付けます。
※ユニットの天面が水平になるように取付けます。



(2)壁面に穴をあける

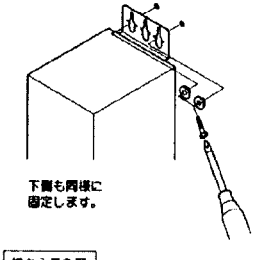
- 壁面のねじ穴位置にドリルで穴（下穴φ６．５深さ２０ ㎜）をあけ、ＰＹプラグを打ち込み余分を切断します。

※穴あけの際は、壁面の電気配線、ガス・水道配管などに注意してください。



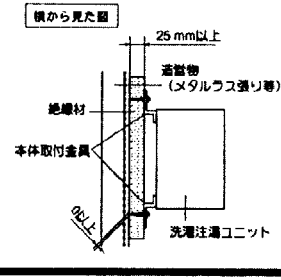
(3)ユニットを固定する

- ユニットをワッシャに通した木ねじで固定します。



(4)ユニットと造営物について

- 電気設備技術基準第１８２条３項により、メタルラス張り、ワイヤラス張り等の木造の造営物に電気機器を取り付ける場合、機器と造営物とは電気的に接続しないように施設しなければなりません。従って、右図のような施工が必要となります。



洗濯注湯ユニットの配管接続

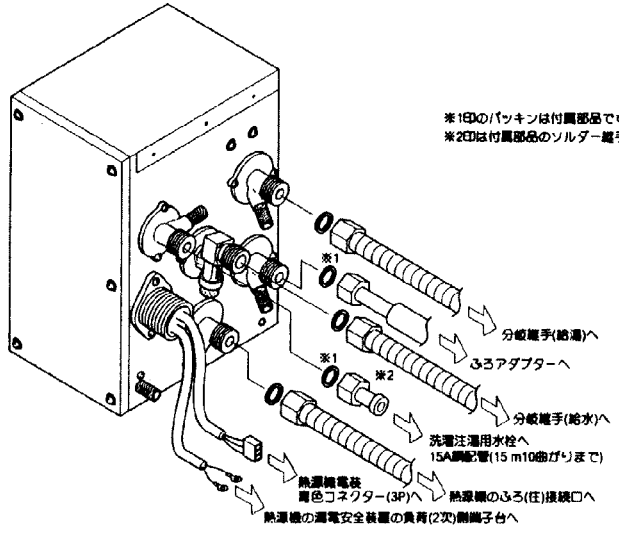
- ユニットに接続する前に必ず水を流して配管内の切粉・砂・ゴミなどを排出してください。
- 配管の凍結予防のため、必ず保温処置（保温材巻、電気ヒーター等）をしてください。
- ユニットと熱源機の接続はフレキシブル管を使用し、無理な力をかけないようにしてください。
- 配管口径は、ユニットの接続口径Ｒ１／２（１５Ａ）以下にしないでください。
- 給水圧が600 kPa（6 kg／㎠）以上の場合は必ず減圧弁を入れてください。
- 継手類はできるだけ少なくし、複雑な配管はさけてください。
- 配管途中に空気溜りのできるような配管はさけてください。
- 熱源機の給水接続口付近に逆止弁と給水元栓（または逆止弁付きの給水元栓）を取り付けてください。
- 銅管と継手類（ソケット、エルボ等）の接続は漏水事故防止のため必ずロウ付で行なってください。
- この機器をお客様に快適に使っていただくには、給水圧力100～600 kPa（1～6 kgf／㎠）は必要です。

※配管材料は必ず関係水道局の承認または検査に合格したものを使用してください。

※フレキ管は極力短くしてください。

洗濯注湯ユニットの配管

- 配管接続図および施工例を参考に配管を分岐して熱源機の給水・給湯配管より配管します。水道配管用継手を使用し分岐させてください。



※1印のパッキンは付属部品です。
※2印は付属部品のソルダー継手です。

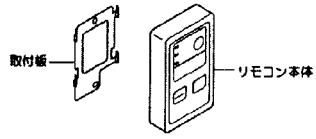
洗濯注湯リモコンの取付方法

電源コードはリモコンコードの接続が完了するまで接続しないでください。

(1)リモコン本体から取付板を下にずらして外します。

(2)取付板を壁に固定します。

固定方法により、使用する部品が異なります。



〈スイッチボックスへの固定の場合〉

付属の丸皿小ねじを使用して、取付板をスイッチボックスに固定します。（この場合、ＰＹプラグと丸皿木ねじは使用しません。）

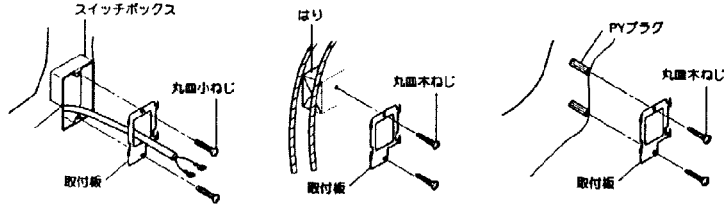
〈壁への固定の場合〉

［木質壁面の場合］

付属の丸皿木ねじを使用して取付板を固定します。（この場合、ＰＹプラグと丸皿小ねじは使用しません。）

［コンクリート壁面の場合］

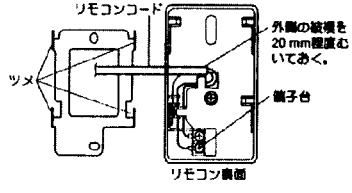
取付板の固定用穴（φ6.5×深さ20㎜）をあけ、ＰＹプラグを打ち込み余分を切ります。次に丸皿木ねじを使用して固定します。（この場合、丸皿小ねじは使用しません。）



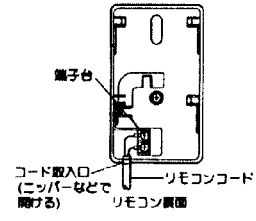
(3)リモコン裏面の端子台にＹ型端子を使用してリモコンコードを接続します。

※露出配線（壁への固定）の場合、先にリモコン本体のコード取入口を、ニッパーなどで開けてください。（基板を傷つけないように注意してください。）

〈スイッチボックスへの固定の場合〉



〈壁への固定の場合〉



- リモコン本体を取付板に固定します。

（取付板のツメ４ヵ所にリモコン本体を引っかけて下方にずらし、しっかりと固定します。）

電気配線工事

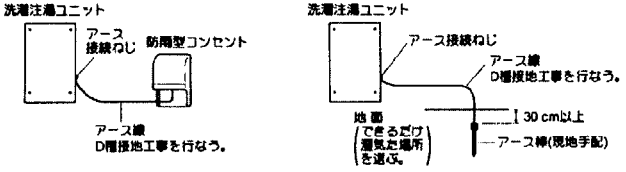
- 熱源機の電源プラグは、各コードの接続が完了するまでコンセントに絶対に差し込まないでください。
- 各コードは熱源機または洗濯注湯ユニットの凍結予防ヒーターに接触しないよう配線してください。
- 各コードが余った場合は、熱源機内または洗濯注湯ユニット内には入れないでください。熱源機外でまとめてください。
- パイプシャフト内に電源電線、リモコン用配線、信号線配線を行なう場合には、電気設備に関する技術基準を定める省令第 193 条の基準に準じた防爆工事を行なってください。
- 電気工事をする場合は、1．電気設備技術基準　2．電気工事士法　3．電気用品取締法　4．内線規定等の関連法規を遵守してください。

洗濯注湯ユニットのアース工事

- 洗濯注湯ユニットはＡＣ１００Ｖ（50／60Hz共用）です。
- 万一の感電事故防止のため、下図のいずれかの方法で必ずアースしてください。
- アース線の接続ねじはユニットの右側面にあります。
- アース端子付コンセントを利用される場合には、接地抵抗値（100Ω以下）をご確認ください。
- 防水コンセントにアース端子が付いていない場合は、別途、電気設備技術基準に基づき、必ず電気工事士によるＤ種接地工事を行なってください。

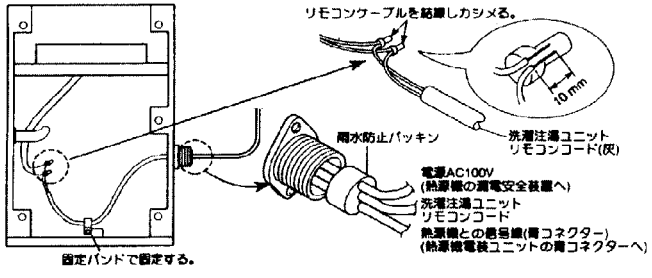
※Ｄ種接地工事は法令で規定されています。
基準に適合しない場合は洗濯注湯ユニットの使用停止を命じられる場合があります。

〈ＪＩＳ防雨型アース端子付の場合〉　〈ＪＩＳ防雨型アース端子付でない場合〉



洗濯注湯ユニットのリモコンコード接続

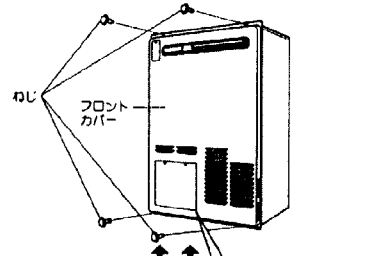
※雨水防止パッキンを必ず取り付けてください。
わすれると雨水による誤動作等の原因となります。

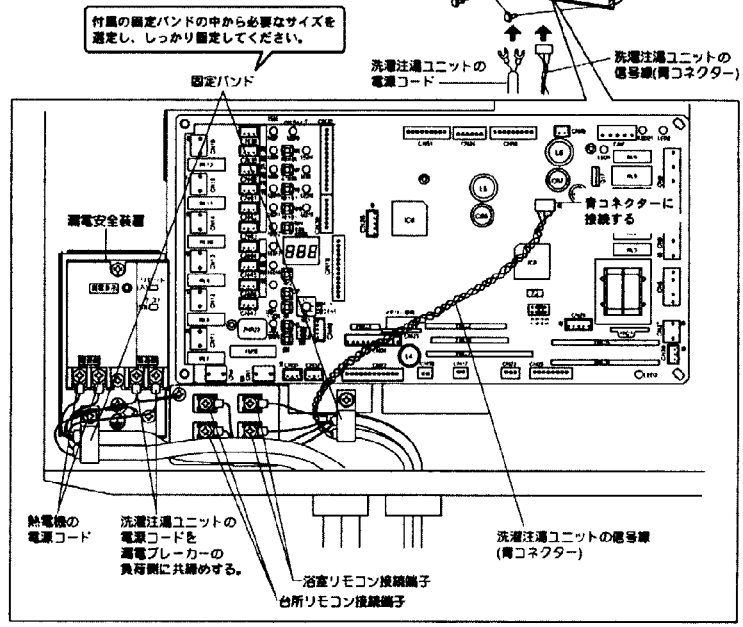


熱源機内の接続

①熱源機のフロントカバーを外します。
②洗濯注湯ユニットの電源コードを熱源機の漏電安全装置の負荷側に共締めする。
③洗濯注湯ユニットの信号線を熱源機の電装の青コネクター部に接続する。
④電源コード、信号線を固定バンドで固定する。
⑤熱源機にフロントカバーを取り付けます。

※イラストはＡＴ－３６６、４４－２４０、２３５、２３０シリーズです。洗濯注湯ユニット接続の青コネクターの位置については熱源機の結線図で確認してください。





試　運　転

給湯・ふろの試運転

●熱源機の工事説明書、取扱説明書に従って試運転を行ない正常に作動することを確認してください。

※続けて洗濯注湯ユニットの試運転を行なうときは、ふろの湯を循環アダプターよりも高い位置で残しておいてください。

洗濯注湯ユニットの試運転

〈準　備〉

①熱源機の電源を「入」、ガス栓を「開」にして、水抜き栓の「閉」を確認する。

②給水元栓を「開」、浴そうの排水栓を「閉」にする。

③熱源機の運転スイッチを「入」にし、給湯設定温度を40℃に合わせる。

④浴そうに循環アダプターの上（5cm以上）までお湯はりをする。（最低水位でふろ自動運転をする。）

⑤熱源機のふろ運転（自動・追いだき・保温）を「切」にする。

⑥洗濯注湯用水栓を「閉」にする。また、洗濯注湯用水栓より水、湯の出ることを確認しますので、洗濯注湯用水栓の排水処理をしてください。

〈試運転〉

①洗濯注湯リモコンの運転スイッチを「入」にし、選択スイッチで「残り湯洗い」コースを選びます。（ランプが点灯し選択コースを表示します。）

②スタートスイッチを「入」にし、洗濯注湯用水栓をあけて浴そうの水（または湯）が出ることを確認してください。浴そうの水（または湯）が減ることで確認できます。

③洗濯注湯用水栓を一旦閉め、3分以上待ってから再度水栓をあけ、再び水（水道水）が出ることを確かめてください。

④確認後、洗濯注湯用水栓を閉めスタートスイッチを「切」にしてください。

⑤次に選択スイッチで「湯洗い」コースを選びます。

⑥スタートスイッチを「入」にし、洗濯注湯用水栓をあけて熱源機の湯（約40℃）が出ることを確認してください。洗濯注湯用水栓を一旦閉め、3分以上待ってから再度水栓をあけ、再び水（水道水）が出ることを確かめてください。確認後、洗濯注湯用水栓を閉めスタートスイッチを「切」にしてください。

⑦次に選択スイッチで「水洗い」コースを選びます。

⑧スタートスイッチを「入」にし、洗濯注湯用水栓をあけて水（水道水）が出ることを確認してください。洗濯注湯用水栓を一旦閉め、3分以上待ってから再度水栓をあけ、再び水（水道水）が出ることを確かめてください。確認後、洗濯注湯用水栓を閉めスタートスイッチを「切」にしてください。

⑨最後に、浴そうの水（または湯）を落とし、洗濯注湯リモコンと熱源機のリモコンの運転スイッチを「切」にします。

※試運転時には、洗濯機が接続されていなくても構いません。この場合は洗濯注湯用水栓を開けたときの排水には十分に注意してください。

※上記③⑥⑧では 3分間洗濯注湯用水栓を閉めることで洗濯とすすぎの切換を行なっています。必ず、3分以上の時間を取ってください。

●正常運転しない場合は、取扱説明書の「故障かな？」を参照してください。

※試運転が終わりましたら、給水接続口のフィルターにたまったゴミなどを掃除してください。

〈試運転終了後の処置〉

●凍結予防の水抜きとガス栓、給水元栓の閉止。

すぐ使用する場合を除き凍結してユニットが破損するのを予防するため、取扱説明書に従って必ず水抜きを行ない、ガス栓、給水元栓を閉じてください。

（凍結により破損したときの修理は、保証期間内でも有料になります。）

※洗濯注湯用水栓に注意ラベルと注意札が取付けられていることを確認してください。

お客様への説明

●取扱説明書に従って「安全上のご注意」「使いかた」をよく説明してください。

●保証書に必要事項を記入してください。

また、取扱説明書の「アフターサービスについて」を説明してください。

●この説明書・取扱説明書・保証書をお客様に渡してください。